

# 雲ヶ畑波多野家文書調査

有賀陽平

## 1. 波多野家文書調査

文化情報研究室では、2018年3月より京都市北区雲ヶ畑の波多野眞氏から所蔵文書を借用し、調査を実施している。本史料群は、以前京都市によって調査が行われ、『史料京都の歴史』6（京都市、1993年、平凡社）内に、「波多野周造家文書」として目録にまとめられている。雲ヶ畑地区では、2016年旧雲ヶ畑村役場文書調査以来、調査を継続している。以前の目録は近世史料が中心であるため、今回は近代の雲ヶ畑村政や御猟場の記録類も含めた包括的な調査を目的とした。また、前回の調査ではマイクロフィルムによる撮影が行われ、京都市歴史資料館にて紙焼資料として閲覧可能であるが、不鮮明な部分も多いため新たな画像データの作成も行っている。

## 2. 調査参加者

東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、有賀陽平・疋田彩花・岩田聖也（4回生）、尾松美早都・瀨本めぐみ・善積沙耶子・米澤千春（3回生）、竹河果穂（2回生）

## 3. 調査概要

今回の調査は、科学研究費助成事業（基盤研究（B））「聖地・霊場の成立についての分野横断的比較研究」（研究代表者菱田哲郎）の一環として、岩屋山志明院をはじめとした京郊山村の寺院・聖地に関する文書を中心とした。

2018年3月26日（月）受け入れ、箱別に文書番号の付与→写真撮影→目録作成→ラベル貼付の順で調査を実施した。文書番号は、全12個ある文書箱ごとにNo.1から付与した。写真撮影では、文書名、箱番号、文書番号の札を文書と一緒に並べ撮影した。目録は、エクセルを使用して原題他各項目の情報をまとめた。また「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」（2017、内閣府）に基づき1セル1データを採用した。ラベルは、和紙に印刷し、可逆性のあるセロゲンを使用し貼付した。



写真1 文書の受入風景

2019年1月現在、写真や目録の確認作業を行っている。今回の調査で確認された文書数は現時点で1924点である。今後、報告書や目録を刊行していきたい。